

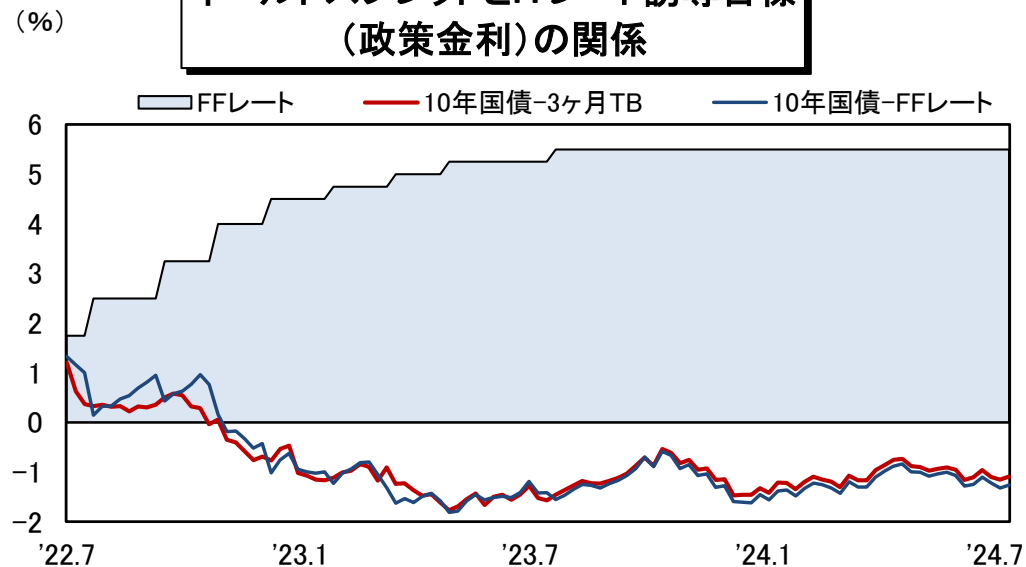
今月の経済・金融情勢 ～わが国をめぐる経済・金融の現状～

2024年7月29日
株式会社農林中金総合研究所
リサーチ&ソリューション第1部

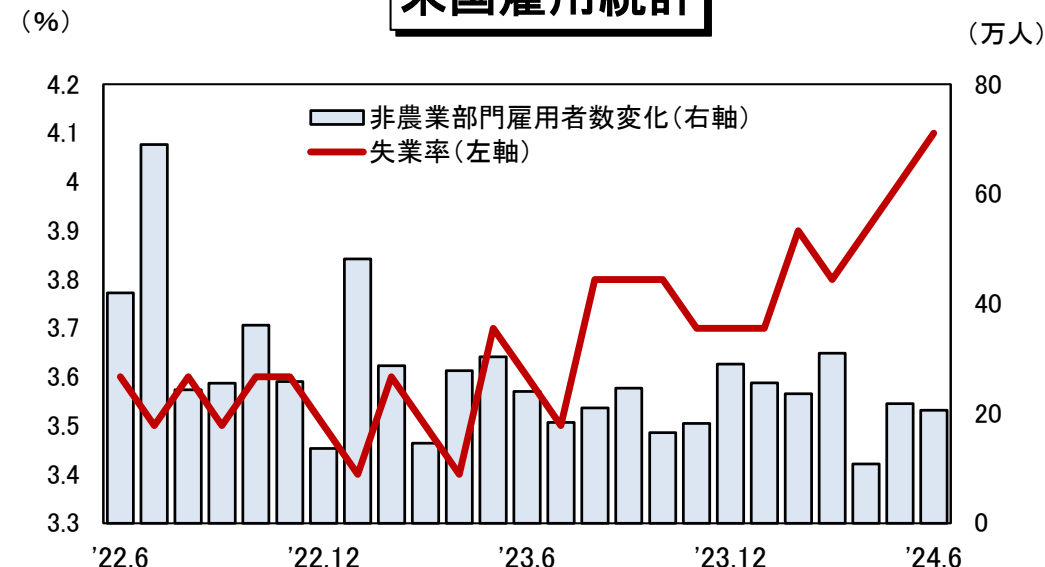
- 【米国】** □雇用統計（6月）の非農業部門雇用者数は前月から20.6万人増、失業率は0.1ポイント上昇の4.1%。物価については、6月の個人消費デフレーター（総合）と食品・エネルギーを除くコアはそれぞれ前年比で2.5%、2.6%。4月以降は物価上昇の鈍化がみられる。
- 【中国】** □6月の経済指標からは、減速傾向が鮮明となった。
- 【日本】** □民間設備投資の先行指標である機械受注（船舶・電力を除く民需）の5月分は前月比▲3.2%と2か月連続で減少した。4～6月期見通し（内閣府集計）では、前期比▲1.6%と2四半期ぶりの減少を見込む。5月の鉱工業生産指数（確報）は前月比3.6%。製造工業生産予測調査によると、6月は前月比▲4.8%、7月は同3.6%の予想となっている。全体としては、2024年1～3月期の経済成長率は2期ぶりのマイナス成長だったが、5月の指標からは景気が足踏み状態から脱した感がある。
- 【金融市場】** □長期金利（新発10年国債利回り）：6月中旬にかけて1%を下回っていた長期金利は6月下旬には再び1%台となった後、7月会合での利上げに関する思惑から1.0～1.1%のレンジ内で動いている。
- 日経平均株価：6月下旬以降に円安が再び進行したほか、米国経済のソフトランディング期待などに支えられた米株高に牽引されたこともあり、7月11日の日経平均は一時42,426.77円まで上昇する場面もあった。その後はスピード調整的な動きに加え、円買い介入によって為替レートが円高方向に戻ったほか、米中摩擦激化への警戒などもあり、大きく調整している。
- ドル円相場：9月FOMCで米国が利下げに転じるとの思惑が高まったタイミングであったが、市場では7月11、12日と続けて総額5.5兆円規模で円買い介入が実施されたとみられている。その後、ドル円レートは150円台前半まで円高が進んだ。
- 原油相場（NY市場・WTI期近）：中国経済の景気減速懸念や、イスラエルとハマスの停戦協議への期待、中東情勢の緊張緩和期待などが原油価格の低下につながった。7月後半にかけて1バレル＝80ドルを割り込んで推移した。

米国経済：物価上昇の鈍化がみられる

イールドスプレッドとFFレート誘導目標
(政策金利)の関係



米国雇用統計



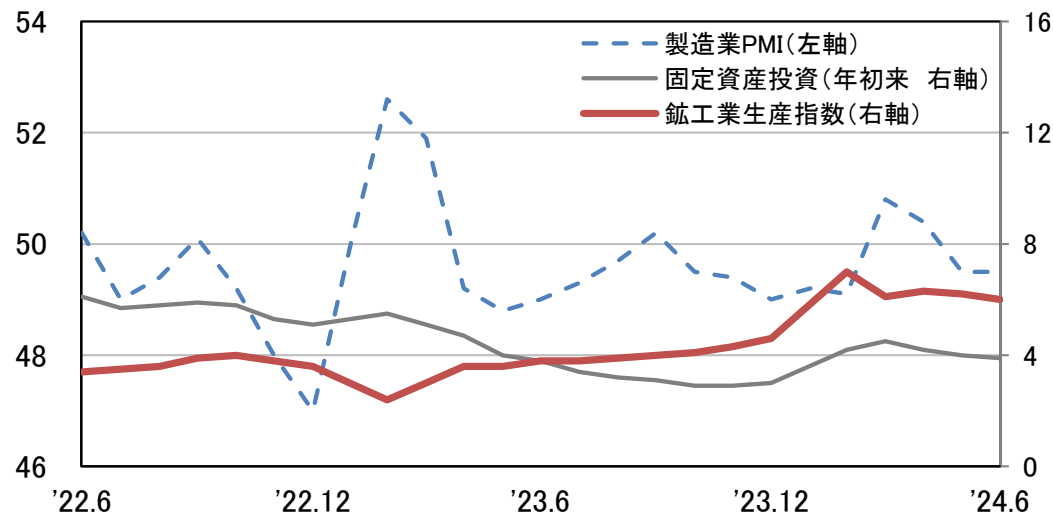
□**米国金融政策**：6月11日、12日にかけて開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）は、5.25～5.50%の政策金利の据え置きを決定した。また、現在のバランスシートの縮小ペースを維持することを決定した。具体的には、米国債については月間償還上限を250億ドル、政府機関債とGSE保証付き住宅ローン担保証券（MBS）については、同350億ドルとなっている。

□**米国経済**：雇用統計（6月）の非農業部門雇用者数は前月から20.6万人増、失業率は0.1ポイント上昇の4.1%。物価については、6月の個人消費デフレーター（総合）と食品・エネルギーを除くコアはそれぞれ前年比で2.5%、2.6%。4月以降は物価上昇の鈍化がみられる。

中国経済：減速傾向が鮮明

主要経済指標の推移

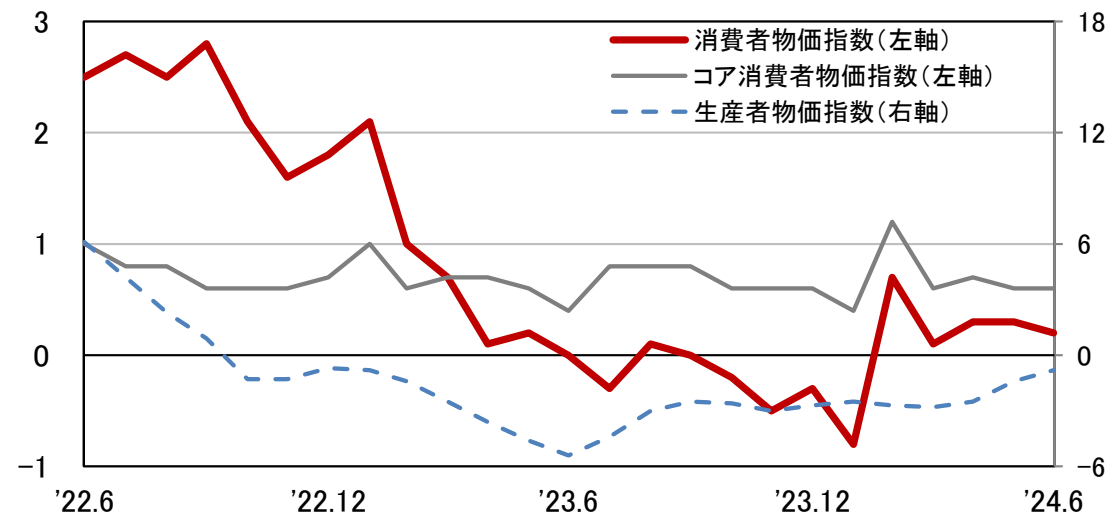
(前年比%) (前年比%)



(資料) Bloombergより作成 (注) 固定資産投資は農村家計を除く値。

インフレ関連指標の推移

(前年比%)

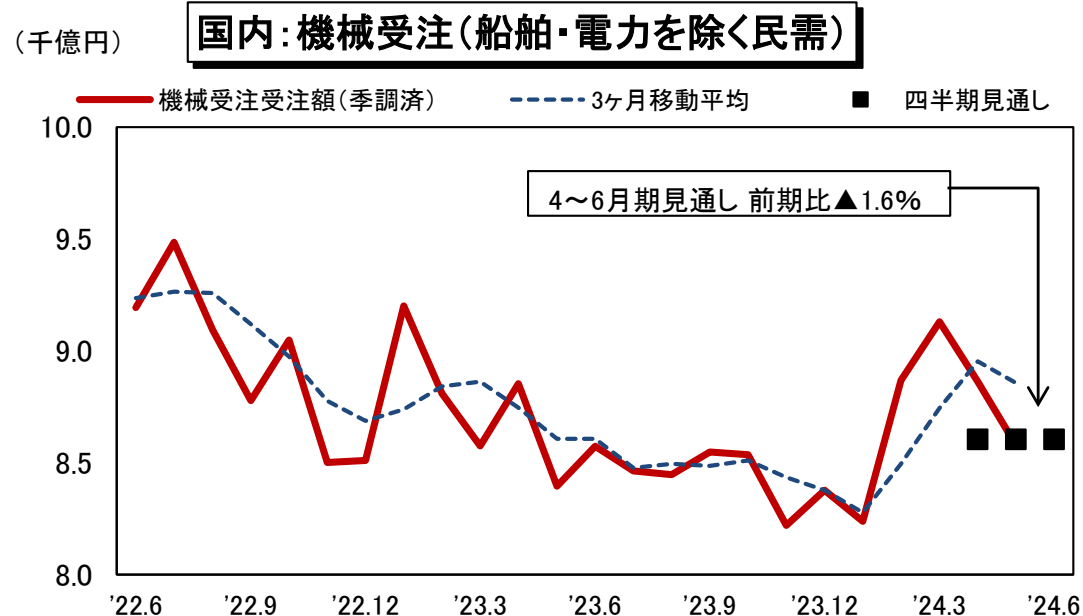


(資料) Bloombergより作成

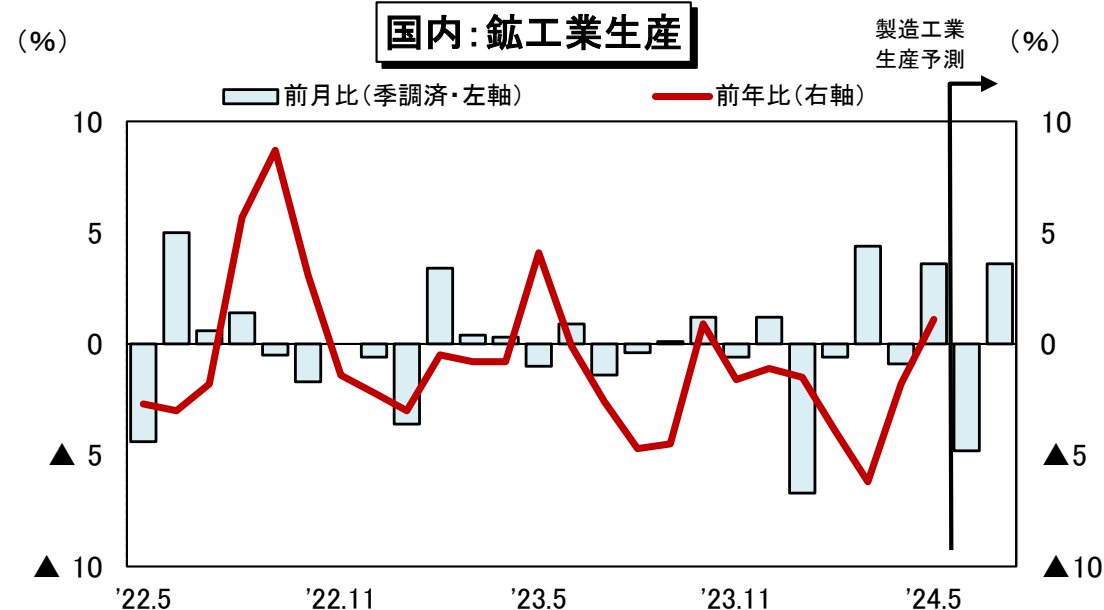
6月の中国主要経済指標について

- 製造業PMI（国家统计局）は49.5と2か月連続で判断基準の50を下回った。
- 固定資産投資は年初来累積で前年比3.9%へと鈍化した。
- 鉱工業生産は前月から0.2ポイント低下の前年比6.0%。
- 消費者物価指数（CPI）は前年比0.2%、コアCPIは同0.6%と小幅に鈍化した。
- 生産者物価指数は前年比▲0.8%と21か月連続でマイナスが続いている。

国内経済：足踏み状態から脱した



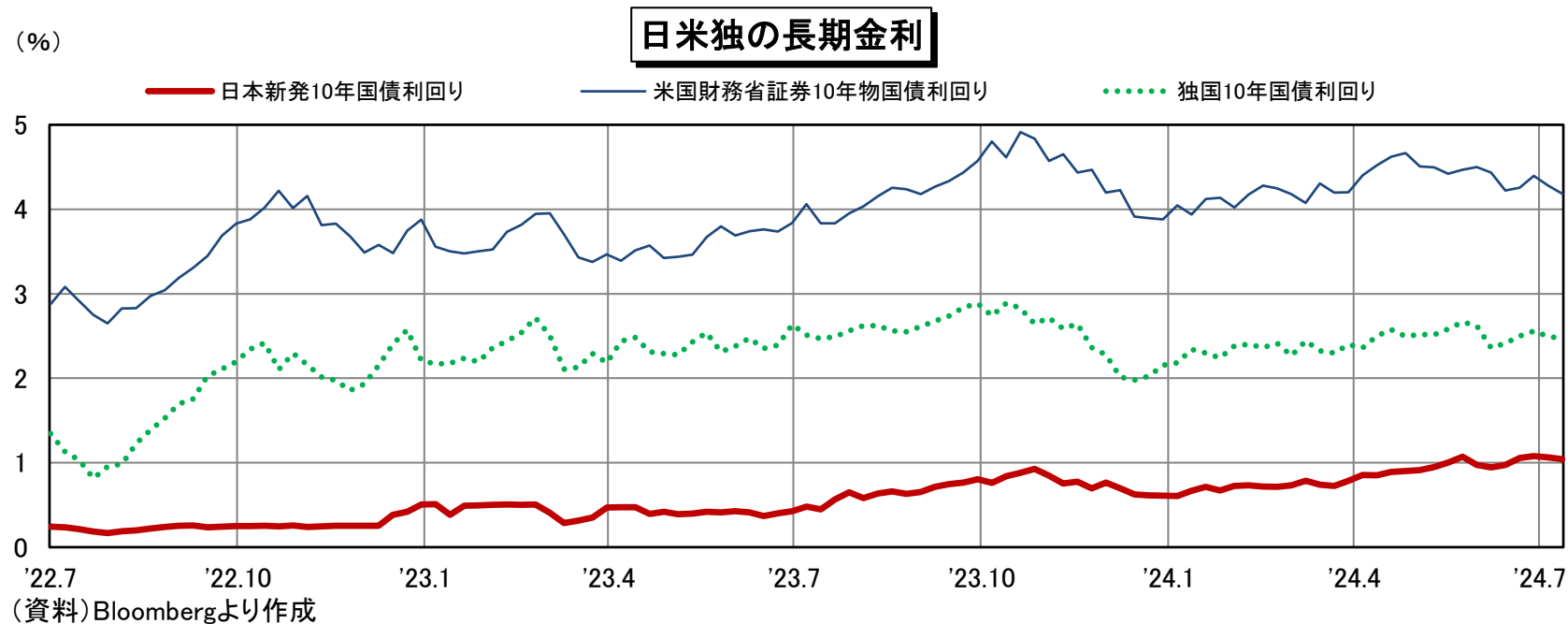
(資料) Bloomberg(内閣府「機械受注統計」)より作成



(資料) Bloomberg(経済産業省「鉱工業生産」)より作成

- **機械受注**：民間設備投資の先行指標である機械受注（船舶・電力を除く民需）の5月分は前月比▲3.2%と2か月連続で減少した。4~6月期見通し（内閣府集計）では、前期比▲1.6%と2四半期ぶりの減少を見込む。
- **鉱工業生産**：5月の鉱工業生産指数（確報）は前月比3.6%。製造工業生産予測調査によると、6月は前月比▲4.8%、7月は同3.6%の予想となっている。
- **全体としては**：2024年1~3月期の経済成長率は2期ぶりのマイナス成長だったが、5月の指標からは、景気が足踏み状態から脱した感がある。

長期金利：再び1.0～1.1%のレンジ



□**日銀金融政策**：7月9～10日に「債券市場参加者会合」を3グループに分けて開催、市場参加者から減額の幅やペース、減額のガイダンスの示し方、残存期間別の減額の進め方等についての意見聴取を行った。実際、多種多様な意見が出たようで、7月会合で示される減額方針が注目される。

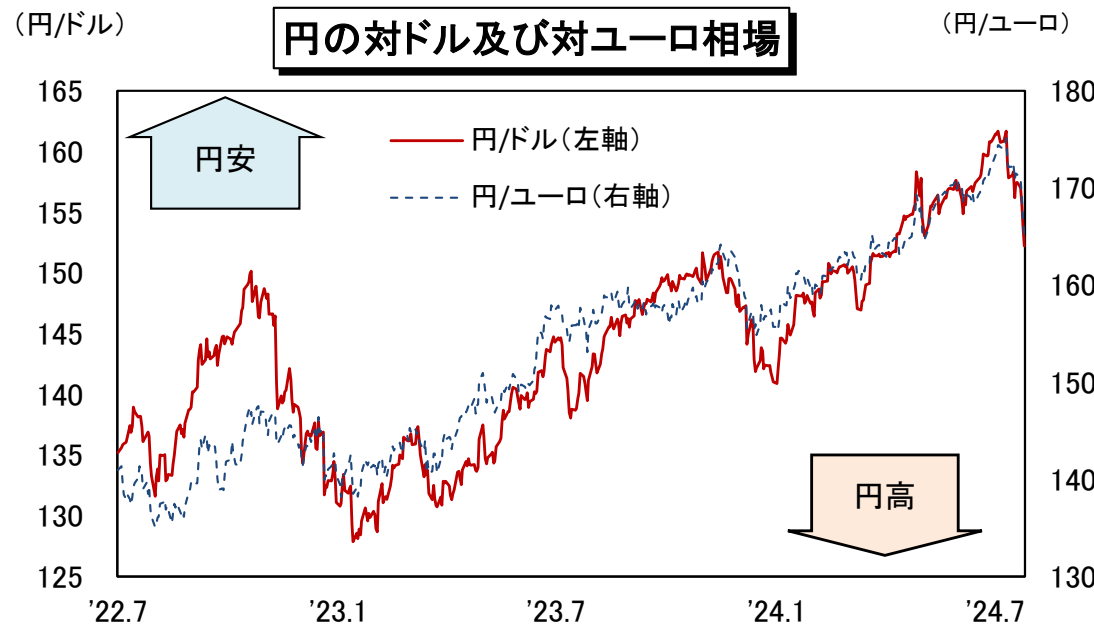
□**長期金利（新発10年国債利回り）**：6月中旬にかけて1%を下回っていた長期金利（新発10年物国債利回り）は6月下旬には再び1%台となった後、7月会合での利上げに関する思惑から1.0～1.1%のレンジ内で動いている。



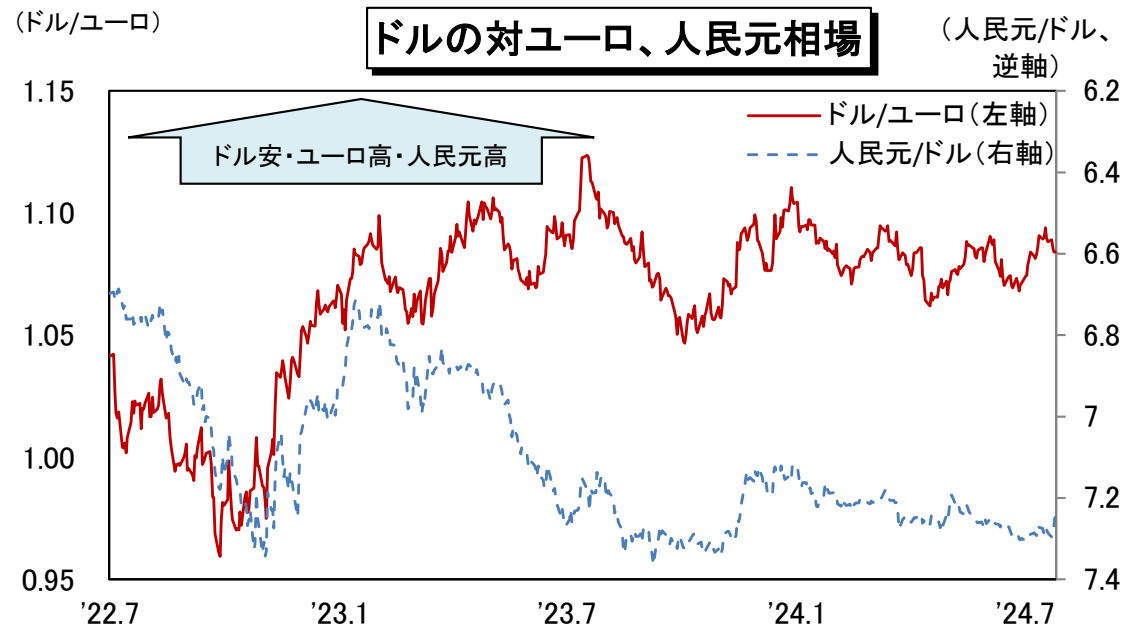
□**日本株価（日経平均）**：6月下旬以降に円安が再び進行したほか、米国経済のソフトランディング期待などに支えられた米株高に牽引されたこともあり、7月11日の日経平均は一時42,426.77円まで上昇する場面もあった。その後はスピード調整的な動きに加え、円買い介入によって為替レートが円高方向に戻ったほか、米中摩擦激化への警戒などもあり、大きく調整している。

□**米国株価（NYダウ平均）**：7月半ばにかけて利下げ観測が強まったことから、17日はダウ平均が最高値を更新（41,198.08ドル）した。その後は、対中半導体規制強化への警戒感がくすぶるなか、決算発表を受けてAI関連投資の収益性についての懸念が強まったことで、大型ハイテク株が売られる展開となり、ダウ平均は4万ドルを割り込む場面もみられた。

為替：再び1ドル＝150円台前半まで円高が進んだ



(資料)Bloombergより作成



(資料)Bloombergより作成

ドル円相場：7月中旬にかけては一時1ドル＝162円に迫るなど、38年ぶりの円安水準となったが、インフレ沈静化を示唆する内容となった米CPIの発表後（11日NY時間）に円高方向に急反転した。9月FOMCで米国が利下げに転じるとの思惑が高まったタイミングであったが、市場では11、12日と続けて総額5.5兆円規模で円買い介入が実施されたとみられている。その後は150円台前半まで円高進行。

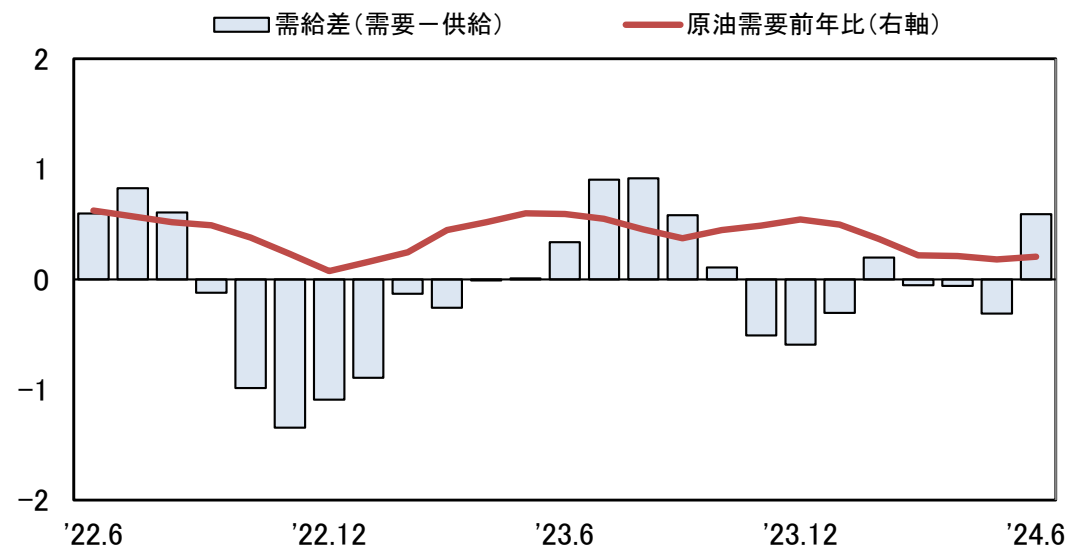
ユーロ円相場：ユーロ円レートはドル高につられてユーロ高傾向で推移してきたが、7月11日には過去最安値となる1ユーロ＝175円19銭まで円安が進んだ。その後、円買い介入を受けてユーロ安方向に転じ、直近は160円台半ばまで円高方向に戻した。

ドル人民元相場：中国経済が軟調に推移している一方、米国の利下げ期待の強まりもありドル・人民元レートは、概ね1ドル＝7.25人民元を中心に推移。

原油：1バレル＝80ドルを割り込んで推移

(百万バレル)

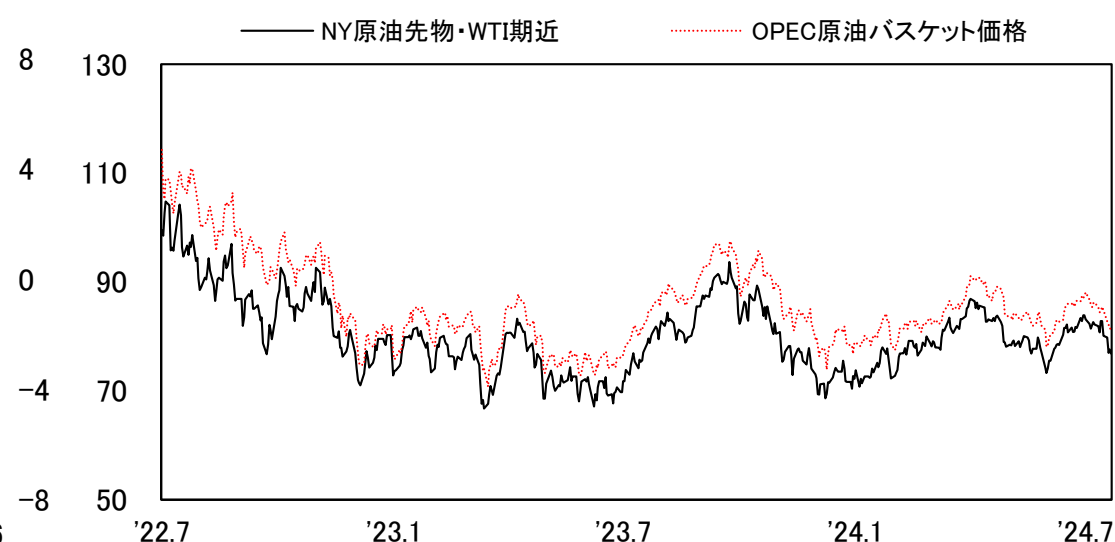
原油需給(3ヶ月移動平均)



(資料)Bloomberg より作成

(%) (ドル/バレル)

国際原油市況



(資料)Bloombergより作成

□**原油先物（ニューヨーク市場・WTI期近）**：中国経済の景気減速懸念や、イスラエルとハマスの停戦協議への期待、中東情勢の緊張緩和期待などが原油価格の低下につながった。7月後半にかけて1バレル＝80ドルを割り込んで推移した。

□**米エネルギー情報局（EIA）**：7月のエネルギー見通しでは、24年の原油先物（WTI期近）の平均価格は1バレル＝82.03ドル、25年は1バレル＝83.88ドルとしている。

年 月		政府：月例経済報告		日銀：経済・物価情勢の展望等	
2023年	7月	➡	景気は、緩やかに回復している。	➡	わが国の景気は、緩やかに回復している。
	8月	➡	景気は、緩やかに回復している。		
	9月	➡	景気は、緩やかに回復している。	➡	わが国の景気は、緩やかに回復している。
	10月	➡	景気は、緩やかに持ち直している。	➡	わが国の景気は、緩やかに回復している。
	11月	↘	景気は、このところ一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している。		
	12月	➡	景気は、このところ一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している。	➡	わが国の景気は、緩やかに回復している。
2024年	1月	➡	景気は、このところ一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している。	➡	わが国の景気は、緩やかに回復している。
	2月	↘	景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。		
	3月	➡	景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。	↘	わが国の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。
	4月	➡	景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。	➡	わが国の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。
	5月	➡	景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。		
	6月	➡	景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。	➡	わが国の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。
	7月	➡	景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。	➡	30日公表予定

(資料) 内閣府「月例経済報告」、日銀「経済・物価情勢の展望」、会合終了後の声明文より農中総研作成 (注) 矢印は景気判断の方向を示す

- 無断転載を禁じます。本資料は情報提供のみを目的に作成されたものです。投資のご判断等のご自身の責任でお願いいたします。
- ©2024 Norinchukin Research Institute Co., Ltd.
- 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-11
- (株)農林中金総合研究所 リサーチ&ソリューション第1部
- TEL070-3035-3519 sako.yoshifumi@nochuri.co.jp